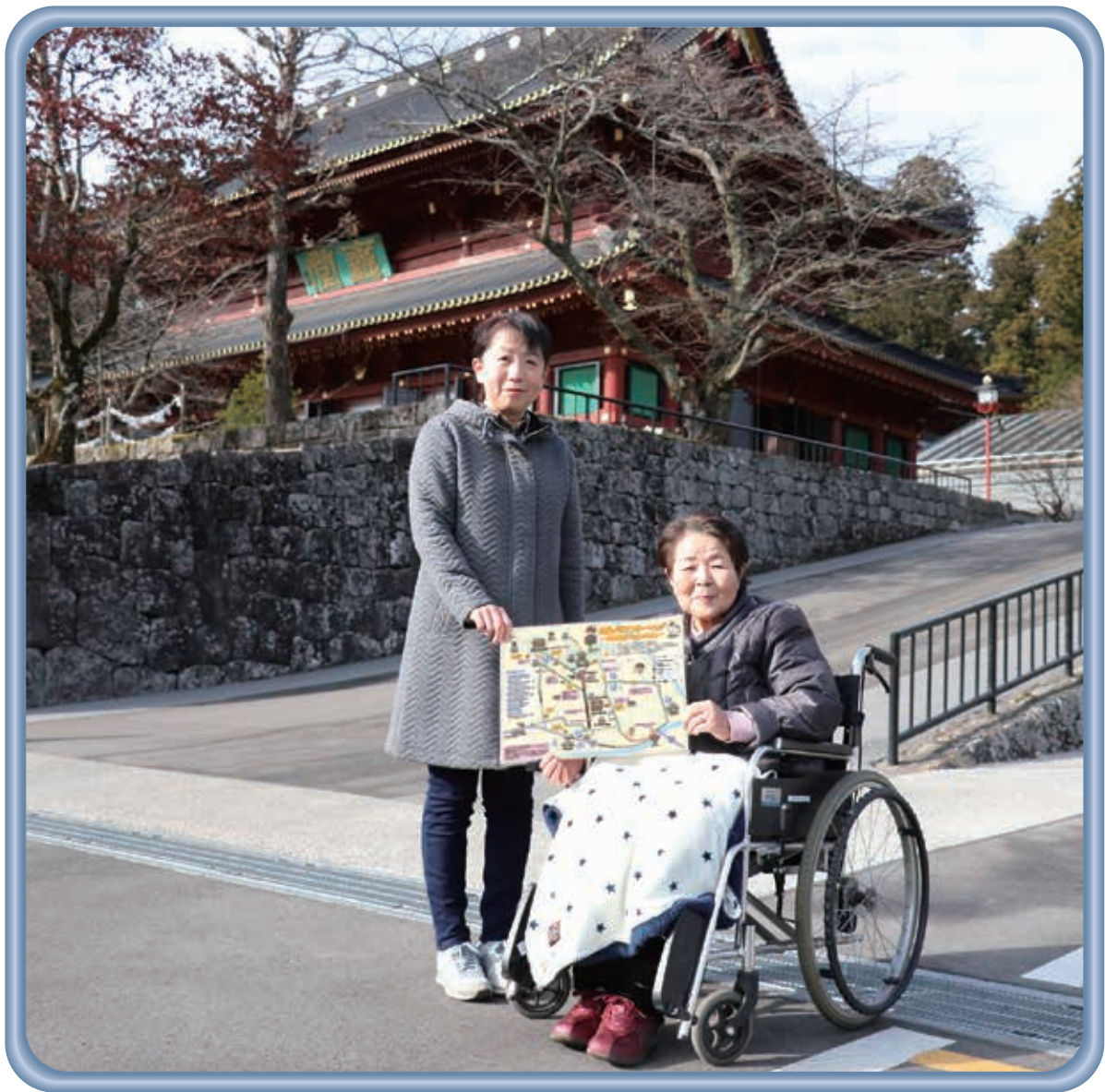


モデル地区における バリアフリー現状調査報告書



日光市

目 次

●はじめに	
●平成 30 年度の事業	1 ページ
●平成 30 年度セミナー開催	1 ページ
●平成 30 年度第 1 回現地調査	2 ページ
●平成 30 年度第 2 回現地調査	3～4 ページ
●先進地視察研修～伊勢志摩バリアフリースター～	5 ページ
●平成 30 年度版バリアフリーマップ	6 ページ
●令和元年度の事業	7 ページ
●令和元年度セミナー開催	7 ページ
●バリアフリーレベルの設定	8 ページ
●令和元年度第 1 回現地調査	8 ページ
●令和元年度第 2 回現地調査	9 ページ
●令和元年度版バリアフリーマップ	10 ページ
●総評	11 ページ
●現地調査の振り返り	12～13 ページ
●調査を終えて	13 ページ

はじめに

日光市では、障がいのある方と支援者の方が日光に訪れる機会の創出や、障害者差別解消法で求められる合理的配慮の理解と意識啓発を促すツールとして「日光バリアフリーマップ」を作成しました。多くの人に、障がいのある方にとって何がバリアになるのか気づいていただき、一緒にバリアフリーについて考えていただきたいという思いを込めました。

作成に当たっては、NPO 法人はばたきを中心に、先進地の取り組みについてのセミナーの開催や現地視察によって、行政と民間の連携や現在の取り組みなど多くを学ばせていただきました。また、障がい者団体や NPO 法人による当事者目線でのバリアフリーセミナーの開催によって、より合理的配慮への理解を深めることができ、調査の準備を行うことができました。

現地調査に当たっては、このバリアフリーマップを利用する人にとって使いやすくなるよう、また、作成を円滑に進められるよう、障がいのある方々と支援者の方々と協働で現地調査を行いました。わずかな傾斜や段差でも車椅子にとっては手ごわいバリアとなってしまうことを、参加者全員が改めて実感したところです。

周辺にお住まいの方々からも現地調査に関心をいただき、励ましの言葉だけでなく、調査内容を聞いていただき、ご協力もいただきました。これもバリアフリーに対する興味や関心につながり、更に理解を深めていただくきっかけになったのではないかと思います。

これらの活動により 1 年目に初版を作成し、これに関わっていただいた皆様から、使い勝手や不足している情報などのご意見をいただきました。翌年に再度現地調査を行い、改訂版を作成しました。

改訂内容は、駐車場やトイレ等の設備等の詳細情報や、傾斜や路面状況による移動のしやすさを 5 段階に色分けして表示するなど、不足していた情報を追加し、より充実したものにしました。

日光バリアフリーマップは、今後も、合理的配慮の理解などのツールとして、こころのバリアフリーを目指して活用していきます。

皆様におかれましては、この日光バリアフリーマップを目にされた際には、事前に知っておきたい情報源のひとつとしてご活用いただければ幸いです。また、NPO 法人はばたきをはじめ、ご協力いただきました皆様に感謝を申し上げます。

令和 3 年 3 月

平成30年度の事業

- | | |
|----------|------|
| ① セミナー開催 | ④ 印刷 |
| ② 現地調査 | ⑤ 配布 |
| ③ 先進地視察 | |



平成30年8月27日(場所:日光総合会館)

演題 増客できるユニバーサルツーリズムを学ぼう

～バリアフリー観光で増客30倍の秘密～

なかむら はじめ
中村 元 氏



水族館の集客請負人と呼ばれる中村元氏が、伊勢志摩の観光再生のために構築したのが障がい者・高齢者とそのコミュニティを狙った日本初のバリアフリー観光システム「伊勢志摩バリアフリースターセンター」。2002年に稼働を始めてから驚異の集客力で増客実績を重ね、今では伊勢志摩と三重県の観光集客を主導する組織になっている。

セミナー
参加者
101名



中村元氏のセミナーの様子



バリアフリー観光の話に会場された方々も興味深く傾聴していました

日本におけるバリアフリースターセンターの先駆けとして、伊勢志摩バリアフリースターセンター理事長の中村元氏を講師に招き、三重県で取り組んだ事業を紹介いただきました。

伊勢志摩バリアフリースターセンターは、社会のノーマライゼーション※化を、バリアフリー観光という経済システムに乗せて達成することを目指しています。観光再生のため、障がい者とその家族に焦点をあてて観光集客で成功した事例をもとに、伊勢志摩地域での行政や民間旅館や福祉関係者の取り組みとバリアフリー基準を学び、今回の現地調査に臨みました。

※ノーマライゼーションとは…障がいのある人が障がいのない人と同等に生活し、ともにいきいきと活動できる社会を目指すこと。

平成30年9月21日 第1回現地調査 JR日光駅～国道119号線～神橋

参加者
20名



日光行政センター近くの公衆トイレ 入口が砂利でした



日光郷土センター入り口のスロープ 溝が気になります！



雨の中の調査でした



東武日光駅前の信号 わたる時間の長さは？

調査は10：00～12：00の間、J R日光駅～神橋までの国道119号線沿いを中心に、障がいのある方や福祉事業所の利用者および職員、日光市社会福祉協議会や日光市職員など総勢20名で実施しました。あいにくの雨模様でしたが、雨の日でないとわからないこともあるので、そのまま調査を行いました。開始前にJ R日光駅前のスペースを使ってミーティングを行い、調査内容や方法についてレクチャーをした後、調査に入りました。

信号の待ち時間や多目的トイレの場所、スロープや道路の斜度などを調べました。調査中に地元の方々から「何をやっているの？」などと声をかけられることもあり、調査内容をお話しすると、応援や励ましの言葉をいただき、少しの段差も車いす利用者にとっては大変なことだということを理解していただけました。大人数での調査を行うことで、関心を持っていただけたようです。

また、この日はテレビや新聞社の取材もあり、メディアに取り上げていただきました。

平成30年9月28日 第2回現地調査 二社一寺周辺

参加者
14名

平成30年度の事業



補助装置を使って



車椅子も補助装置を使うとラクですね



テレビの取材を受けています



五重塔に行くまでの石畳

10：00～12：00の間、世界遺産である二社一寺周辺の調査を行いました。地元の障がい福祉事業所の職員や利用者の方、日光市社会福祉協議会、市から14名が参加しました。二社一寺周辺はほとんどが坂道で、参道などは砂利道が多く、車いす利用者だけではなく、参加者もこの坂道には苦労しました。階段も多く、段差や幅が大小さまざまで介助者を悩ませました。

しかしこれらの経験は貴重で、現場に来てみて初めて気づいたことも少なくなく、さまざまなことを学ぶ機会となりました。今回は普段あまり見かけない「けん引式車椅子補助装置（車いすに装着することで、前輪を浮かせながらけん引できる器具）」を使ってみました。この装置を使用すると介助者の負担がかなり軽減することがわかりました。



平成30年9月28日 第2回現地調査 二社一寺周辺



東照宮表参道の階段 介助者が3人必要です



輪王寺宝物殿駐車場のトイレ 広くてきれいです



トイレに入るまでのスロープ



テレビの取材を受けています

今回の現地調査は調べることがたくさんあり、時間を目いっぱいを使い、充実した調査になりました。旅行や出かける際に最も大切な情報の一つに、トイレがあります。これは老若男女、障がいがあってもなくても必要不可欠なものです。多目的トイレの有無、設備の使いやすさなどを重点的に調査しました。トイレの入り口の幅や洗面台の高さなど実際に利用してみると、その使い勝手がわかりました。また、車いす利用者の方がテレビの取材に応じるなど、前回の調査に引き続きメディアが取り上げてくれました。



平成30年11月26～27日 先進地視察研修

伊勢志摩バリアフリースターセンター
視察研修

車椅子で2階に移動できる昇降階段があります



電動車椅子の使い方の説明を受けています



砂利道での移動

バリアフリーマップを作るにあたり、日本における先進地である三重県伊勢市を視察しました。伊勢志摩バリアフリースターセンターでは、同センター事務局長の野口様から、立上げから現状に至るまでについてお話を伺いました。当時の三重県知事が掲げた「日本一のバリアフリー県にする」という大号令の下、行政と民間が連携してその取り組みを行っており、バリアフリー基準の周知や福祉と観光の視点など、多くの情報が得られました。

また、平成30年8月に日光市で開催したバリアフリーセミナーの中で紹介された伊勢志摩地域を、伊勢志摩バリアフリースターセンターの中村千枝様に案内をしていただき、増客30倍を実現した日の出旅館をはじめ、伊勢市おはらい町おかげ横丁や伊勢神宮などバリアフリー化された各所を視察しました。

日光と違って坂が少なく、街中は車いす利用者にとっても移動しやすく感じられました。

伊勢神宮内では無料で車いすを借用できます。砂利道が多く移動が大変であろうと想像していましたが、タイヤは砂利道用に太くなっており、砂利にタイヤが埋まることもなく楽に移動ができるよう工夫がされていました。坂の多い日光と条件は違いますが、バリアフリー化は建物や敷地の構造を変えるなどの大掛かりなものだけではなく、アイデア次第でできることもあり、方法はひとつではないことを学びました。

平成30年度作成(初版)



令和元年度の事業

① セミナー開催

③ 印刷

② 現地調査

④ 配付

令和元年8月26日(場所:日光市役所本庁舎)

演題 障がいを持って分かったバリアフリー

むらかみ はちろう
村上 八郎 氏

演題 改正バリアフリー法を活用して地域のバリアフリーを推進するには

さいとう やすお
齋藤 康雄 氏

<講師プロフィール>

村上 八郎 氏

- ・自動車部品製造会社在职時代に交通事故で脊髄を損傷し、身体障がい者になり車いす生活を余儀なくされる。
- ・2年間の療養生活を乗り越え、会社に復帰。11年間勤める。その後、車椅子の会を設立。会長を務めるとともに、障がい福祉の発展と障がい者を取り巻く環境の改善に尽力している。



<講師プロフィール>

齋藤 康雄 氏

- ・17歳の時にプール事故で頸髄損傷し、身体障がい者になり車いす生活となる。
- ・平成23年にNPO法人自立生活センターとちぎを設立し、代表を務めるほか、栃木頸髄損傷者連絡会副会長も務め、障がいのある方の支援活動に力を注いでいる。

セミナー
参加者
50名

車いすを利用しているお二人から、福祉や支援についてのお話をお聞きました

NPO法人栃木県車椅子の会会長の村上八郎氏と、NPO法人自立生活支援センターとちぎ代表の齋藤康夫氏のお二人をお招きし、セミナーを開催しました。

村上氏は、一般企業在职中に事故で脊髄を損傷し車いすの生活となりましたが、2年の療養生活の後に復職されました。車イス利用者だからこそわかるお話として「障がいを持ってわかったバリアフリー」の講演をいただきました。

齋藤氏も事故により頸椎を損傷し、車いすの生活となりました。平成23年にNPO法人自立生活センターとちぎを設立し代表となりました。「改正バリアフリー法を活用して地域のバリアフリーを推進するには」と題して、バリアフリー法の説明と活用について講演をいただきました。

改めて、バリアとは気が付かないものもあり、少しの工夫で解消されることもある。そんな気付きをさせてくれるセミナーであり、バリアフリー現状調査においてもその気付きが必要であると感じました。

バリアフリーレベルの設定

バリアフリーレベル（車いす使用時の移動難易度）を「レベル1～5」で表示

レベル1…介助無しで移動可

レベル2…注意をして介助無しで移動可

【道幅が100cm以下】

【日差し除け・雨除けできる場所が
5m以上離れている】

【5cm以下の段差が一部ある】

**レベル3…1人の介助者がいることが
望ましい**

【傾斜が「水平12に対して1上がる
傾斜（角度5度）」を超える】

【5～20cmの段差が一部ある】

【人の通行量が多い（移動の際、周
りの速度に合わせる必要あり）】

**レベル4…2人以上の介助者がいるこ
とが望ましい**

【20cm以上の段差が一部ある】

【歩道がない】

【道が舗装されていない（砂利・
土の道）】

**レベル5…車いすや使用者の持ち上げ
ができる複数人の介助者が
必要**

【階段等、80cm以下の間隔で
連続している段差がある】

※【 】のうち、いずれか1つ以上が該当

令和元年10月21日 第1回現地調査

東武日光駅～神橋

参加者
60名



東武日光駅前にて



駅前から調査開始！



平成30年9月に引き続き、東武日光駅から国道119号線を通り、神橋までの区間を調査しました。今回は障がいのある方や障がい福祉団体関係者、障がい福祉事業所の利用者及び職員、日光市社会福祉協議会職員、日光市職員らに加え、企業のCSR（社会貢献活動）関係者も調査に加わり、総勢60名が参加する調査となりました。

東武日光駅前に集合し、調査内容や方法、さらに車いすの操作方法や盲導犬との接し方などのレクチャーを行ってから調査を開始しました。前回は信号機の変わる速度や歩道の幅などを重点的に調査しましたが、今回はトイレの種類やその数、また駐車場の数や利用時間、収容台数などを調べました。

国道119号線の両側を4グループに分けて、移動の難易度や道路の斜度などを調査しました。参加者からは多くの質問や意見が出て参加者同士の交流にもつながりました。

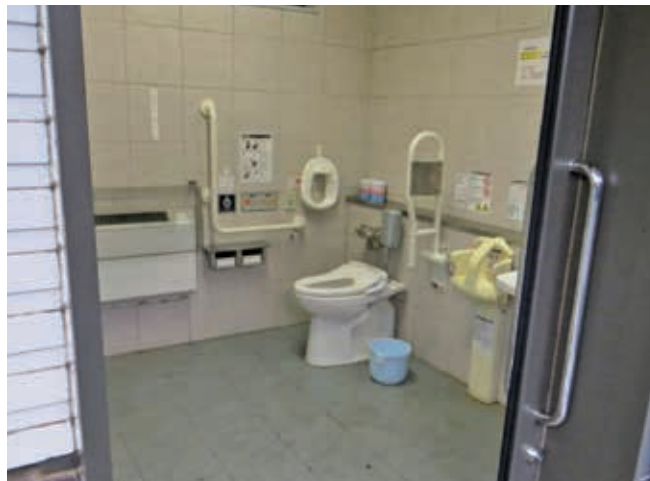
令和元年10月25日 第2回現地調査 二社一寺周辺

参加者
13名

令和元年度の事業



障がい者用スロープがあります



多目的スペースの確認



調査を終えて

平成30年9月に引き続き、世界遺産「日光の社寺」周辺を調査しました。今回は荒天のため参加者は障がい福祉団体役員や障がい福祉事業所職員、日光市社会福祉協議会職員、日光市職員の13名で行いました。10月21日の調査と同様にトイレ、駐車場、移動の難易度、道路の斜度などを調べました。

実際に雨の降る中を歩いてみて、障がいのある方が移動する難しさを実感しました。外出の事前確認として、天気予報等にくわえ、駐車場やトイレの位置などの情報が載っている、このバリアフリーマップを活用していただきたいと思います。



令和元年度作成(改訂版)





総 評

マップは日光市における 共生社会実現のツール

宇都宮大学地域デザイン科学部教授 なかむらゆうじ 中村 祐司

報告書に目を通して、まず驚き感銘を受けたのは、バリアフリーマップ作成の出発点となった平成29（2017）年10月から今日まで、マップ作成に実に100名を超える人々が関わってきたということである。マップは民間や行政の福祉担当にとどまらず、「エンジニア」など、作成に賛同する多様な協力者による成果だとわかる。

現地調査の写真からもうかがわれるのは、車いす利用者の目線からの徹底した現場主義であり、日光市の対象地域においてマップを有用性のあるものにしていこうとする関係者の熱い思いである。令和元（2019）年8月のセミナー開催の様子からも、障がい者とバリアフリーの現状について身をもって知る当事者二人を招き、改正バリアフリー法の活用した推進策のあり方を正面から問う充実ぶりが伝わってくる。

このようにマップ作成に至るプロセスには、地べたを這いずり回るような検証作業を地道に積み重ねることで、共生社会という理念・理想を車いす利用者のバリアフリー実現によって達成しようとする関係者の志が一貫している。また、障がい者の就労支援組織であるNPO法人「はばたき」が関係者相互をつなげる連結役として要の役割を果たしている。

仕事柄、地方自治体の審議会等で、ハザードマップや避難経路、危険箇所などについてのマップを目にする機会がある。しかし、私にはこの「日光バリアフリーマップ」（「JR-東武日光駅から神橋」と「世界遺産『日光の社寺』」が表裏で各1枚）が、突出した秀逸な出来映えだと思われた。

道案内役の猫の登場、駐車場やトイレがどこにあるのかのわかりやすい提示、道路の斜度など、マップから醸し出される雰囲気がとても柔らかく優しい。2年目のマップは、たとえば駐車場の利用時間や収容可能台数を盛り込むなど、1年目からさらにバージョンアップされている。

とくに見せ方の工夫が凝らされているのがポイント箇所の提示である。たとえば東武日光駅前近くの歩道について「歩道の道幅は3.3mあって通りやすい」、また神橋を渡った後の通路について「歩道がなく狭い、車に注意!」といった記載がある。このように車いす利用者にとって、実に有用な指摘が満載されているといってもよい。さらに2年目マップではレベル1から5まで道路を色分けし、傾斜度を提示しつつ、たとえば赤色のレベル5については「車いすや使用者の持ち上げができる複数人の介助者が必要」と説明している。

障がいの有無にかかわらず、移動というのは、人間の基本的な行為の一つだと思う。その意味でこのマップは、車いす利用以外でもこれまで外出をためらっていた人々の背中を優しく押す強力なツールであると同時に、多様な担い手による傑作であるのは間違いない。

現地調査の振り返り

日光バリアフリーマップ作成に寄せて

栃木県車椅子の会会長 ^{むらかみ はちろう} 村上 八郎

日光市内のバリアフリーマップの完成有難うございます。日光市とNPO法人はばたきが協力して作成したバリアフリーマップは障がい者、特に車いす生活者にとっては大変ありがたく思います。車いす生活者は、一番大切な排泄が出来ないことは旅行をあきらめる大きな要因となっていました。マップが出来たことでこれを利用して安心して出かけられます。最近、多目的トイレは新しい公共施設には必ず付くようになっていますが、ある公共施設では目的以外に使っていることもあり、それはやめてほしいです。この日光バリアフリーマップの作成にあたっては大勢の関係者とボランティアが関わったこの事、皆さんにお礼を言いたいと思います。これから日光方面に旅行する時は安心安全で快適な旅行が楽しめると思っています。

現地調査を実施して

元日光市障がい者の会会長 ^{よしだ くにお} 吉田 國男

10月21日のバリアフリー調査の日、私たちは東武日光駅へ集合した。福祉関係者だけではなく、日光市内の企業の人たちも参加していた。私は国道119線の東照宮に向かって左側を担当したが、所々工事中で車いす利用者の移動は厳しいと感じた。旧日光市役所入口までは歩道が広がって、車いすでも歩きやすくなっている。その先が問題で、歩道は狭くなり、道の傾斜もきつくなっているため、街の人や通行人の協力をお願いしなければ、障がいを持つ人が歩くことは困難だと思った。二社一寺周辺は砂利道が多くまたほとんどが坂道である。トイレの数は少なく、和式のところも多い。また、この周辺はほとんどの所に一人以上の介助者が必要なため、車いすを利用する方の観光には厳しいと感じた。こういった調査をみんなで行き、バリアフリーについてみんなで考えていかないといけないと思った。

改正バリアフリー法を活用して地域のバリアフリーを推進するには

自立生活センターとちぎ代表 ^{さいとう やすお} 齋藤 康雄

表題のテーマで講演させていただき、私自身が障がい者であることから外出する際の障壁、例えばテーブルの脚の位置で膝がテーブルにぶつかり、テーブルに入れないこと。またバリアフリー新法も12年ぶりの改正や各都道府県や市町村で独自のバリアフリー条例ができているので、日光市へ観光に来てもらえるように独自の条例づくりなどを検討してもらえればということをお話させていただきました。日光市ではすでに合理的配慮の提供の支援に係る助成制度を行い、合理的配慮の理解や周知という目的で取り組まれているので、この改正版日光バリアフリーマップとともに活用してもらえたら良いと思います。

日光バリアフリーマップについて

伊勢志摩バリアフリーツアーセンタースタッフ ^{なかむら ちえ} 中村 千枝

日光バリアフリーマップ作成に、伊勢志摩バリアフリーツアーセンターとして、そして、個人的にも皆さんの思いの詰まったマップにわずかばかりでも関わらせていただき光栄に思います。マップは初版と改訂版が作られ、改訂版は初版に対する意見や感想等が活かされていると思います。この日光バリアフリーマップは地元の障がいを持つ方々の道しるべになっていると感じます。そして新聞やテレビ、ラジオ等を通してたくさんの人にその輪が広がっているように感じます。この日光バリアフリーマップ作成において、皆さんが取り組んでいらしかったこと、学んだことをもとに、「未来の提言」ができるといいですね。三重県は2021国体・障害者スポーツ大会が開催されますが、それに向けても頑張っています。2022の栃木県ともに頑張りましょう！

現地調査を振り返って

社会福祉法人すぎのこ会 愛晃の杜

総括主任 金子綾乃

相談支援専門員 神山歩美

二社一寺及びその周辺で行われた4回の現地調査を経て、2020年6月25日に愛晃の杜にて調査の振り返りが行われました。参加した皆さんからは口々に調査に対する活発な意見が聞かれ、このバリアフリーマップ作成がひとつの集大成を迎えようとしているのだと感じました。

調査開始当初、ある女性参加者さんより「私は日光に住んでいるのに今まで東照宮やその周辺に行ったことが無かった。この調査を通して訪ねる事が出来て良かった。私の意見がマップの作成に役立つのであれば是非また協力したい。」とのお話がありました。日光市は自然豊かで美しく、世界に誇る魅力的なまちであると思います。日本国内のみならず、世界各地から

多くの人々が訪れる世界的な観光地です。誰にでも開かれたまちではありますが、障がいを持った人々にとっては移動したり、観て歩いたりするのにはハードルの高い場所になってしまっているのかもしれませんが。彼女の言葉がそれに気づかせてくれたと同時に、このバリアフリーマップの一つの道しるべになったように思えます。

いざ調査を始めると、雨の日や日差しの強い日もあり、外出は条件の良い日ばかりではない事を皆で再確認したり、坂道や道幅に四苦八苦したり、東照宮の階段を車いすごと持ち上げてもらって昇ったりと様々な経験を皆で積み重ねていきました。そうやって出来上がったこのバリアフリーマップは、現場の生の声や思いがたくさん詰まったものとなっています。今後も様々な人々が日光観光を楽しむ一助として、このマップを活用してもらう事。それが作成に携わったすべての人たちの願いであり希望です。

調査を終えて・・・

日光バリアフリーマップが作られた背景には、日光市内のみならず栃木県内あるいは全国的にも「障がい」や「福祉」に対する理解が不足しているという現実があります。そこに対して多くの人に感じていただき、考えていただきたいというメッセージが込められているのがこの「日光バリアフリーマップ」です。

1年目は初めて経験することが多く手探りの状態で始まりましたが、障がいをお持ちの当事者の方やその支援者、支援団体そして行政や地域住民の方、さらに三重県にある先進地の方やセミナーの講師等々本当に多くの方々が協力してくださり、2年目はその改訂版ができました。そこには駐車場やトイレ等の詳細情報の掲載、また、移動のしやすさを5段階に色分け表示したなど、より充実したものになりました。そしてそれが新聞やテレビ、ラジオ等でも紹介され、たくさんの反響もいただきました。日光市外の障がい福祉事務所の職員からは、旅行の下見の時間が省略されたという話も聞き、障がいのある方のみならず高齢者の方や外国人の方々にも活用されているという話も聞いています。また、栃木県内の他の都市でもバリアフリーマップを作ろうという動きも出てきているようです。その動きがさらに広がっていくことを期待します。

(NPO法人はばたき 理事長 広瀬 浩)

日光市役所 健康福祉部 社会福祉課 障がい福祉係

〒321-1292 日光市今市本町1番地

電話 0288-21-5174 FAX 0288-21-5105





©日光市／画:日光観光大使 一葵さやか
日光市障がい福祉支援マスコットキャラクター
きすげちゃん



©日光市／画:日光観光大使 一葵さやか
日光市障がい福祉支援マスコットキャラクター
くーすけ&すずめ